

全国保健師長会千葉県支部だより

令和5年度 号外 令和5年11月30日発行

1 千葉県支部長あいさつ

支部長 田中由佳(習志野健康福祉センター)

秋も深まり穏やかで過ごしやすい日が続いております。コロナ禍で控えていた楽しいイベントなども復活している一方、地域保健法や感染症法の改正による新たな計画づくりや平常業務の企画運営も加速しつつある今日この頃です。

今年3月1日毎日新聞によりますと、『現場で働く保健師の間で、「アイデンティークライシス」(自己喪失)とも言える状況が起きている。新型コロナウイルスの感染拡大など、業務の多忙などを理由に63.5%が離職を検討していることも明らかになった。(自治労が公表したアンケートより)』という記事が掲載されました。私だけじゃなかった!と思えたり、退職していった仲間を思ったりするのではないのでしょうか。みんなで話す機会を持ったり、自分へのご褒美として楽しむことを積極的に取り入れたり、何とか激動の時代を仲間とともに乗り越えていければと思います。

支部だより号外では、さいたま市で開催された南関東・東京ブロック研修会の様子をお届けします。グループワークでは、他県の方とも交流ができ元気をいただく機会ともなりました。

2 令和5年度 南関東・東京ブロック研修会概要

- (1) 開催日時: 令和5年10月28日(土) 午後1時15分~4時15分
- (2) 会場: ソニックシティ国際会議室(さいたま市大宮区)
- (3) 参加者: 会場84名 オンライン103名(千葉県支部は、会場+Zoomで28名)
- (4) 研修テーマ: 「多様化する保健師の人材育成とは~日々の実践を振り返る~」



【全国保健師長会からの報告】 報告者: 東京都多摩府中保健所 河西あかね 氏

昭和54年に発足した全国保健師長会は、自治体に所属する保健師長と同等以上の職にあるものを会員とし、令和5年3月末現在の会員数は、5,371人となっています。(千葉県支部会員は、61名が加入しています。)

これまで、災害時保健活動マニュアルの策定や人材育成体制の検討などに取り組み、厚生省/子ども家庭庁 審議会・検討会等に参画し、自治体保健師の保健活動の実態や意見が反映されるよう活動しています。

令和4年度調査研究では、新型コロナ対応の保健師の活動と視点を記録として残す活動や、新規採用保健師の人材育成に係る実態調査、研修体制の構築などを進めてきました。人材育成の実態調査の報告では、新規採用保健師の満足度として、「業務で出した成果をお互い評価・承認する習慣ある」「先輩・上司と仕事以外も相談できる」「保健師業務の意義・理由を丁寧に説明している」などが上位となっており、OJTで参考にしたいと思いました。

~新型コロナ対応の保健師の活動と視点~ まとめより

- ♣ 住民の命と暮らしを守るという強い使命感と誇り
- ♣ 生活習慣病や健康づくりが健康危機管理でも重要
- ♣ いつでも応援に入れる知識スキルを習得しておく
- ♣ 俯瞰的に判断し戦略的に交渉していく能力が必要 などなど..

~人材育成について~ 統括保健師の皆さんへ

- ♡ 自治体の基本方針や保健活動の目指す姿を共有しましょう。
- ♡ 安心して働くことができる職場環境をつくりましょう
- ♡ 日常的な振り返りを丁寧に進めましょう
- ♡ 保健師業務の意義等丁寧に説明し、サポートしましょう。
- ♡ 統括保健師を配置し、組織的、体系的な人材育成を!

【実践報告1】 トレーナーを活用した人材育成の取り組み

報告者: 千葉市保健福祉局保健福祉総務課 保健師活動推進担当課長 高塚 美佐 氏

千葉市の概況として、『健やか未来都市ちばプラン』を基に、各区の特徴や課題等を踏まえ、中央区では、団地の高齢化、美浜区は、子育て世代の転入、若葉区では、ラジオ体操の普及、花見川区では、糖尿病ゼロプロジェクトが進められているなどの紹介がありました。保健師数は155人、ここ数年毎年10人以上の新規採用者があり、各区の健康課に配属される保健師は、4割が新任期となり、新任保健師育成のマンパワー不足が課題となっています。コロナ禍において実習で家庭訪問を経験していないなども背景にあり、支援スキルの習得に時間がかかる印象があるなど、プリセプター等の負担も大きくなっていました。そこで、新任保健師育成のためトレーナーを配置し、丁寧な支援を行うことができたこと、また、プリセプター等の負担軽減に加え資質向上にも繋がっているとの報告でした。トレーナー保健師は、早期退職した熱意がある人材を配置することができたとのこと。働きやすい職場づくりにも好影響をもたらしていると感じました。

★ 実践報告1,2の資料は、全国保健師長会 ブロック活動に掲載しています。 <http://www.nacphn.jp/02/block/>



【実践報告2】小さな町だからできること

報告者：神奈川県 開成町子育て健康課こども政策担当課長 田中 美津子 氏

神奈川県開成町は、小田急小田原線や東名高速大井松田インターがあり、交通の高い利便性があり平坦な可住地割合100%の土地柄で、6.55 km²の県内一小さな町でありながら、年少人口県内ナンバーワン（14.8%）！町役場の庁舎は、日本発！ゼロエネルギー庁舎という魅力的な町とお見受けしました。保健師は、8名で県の保健師が1名派遣されているとのことでした。報告者の田中課長さんから、『小規模町村では、やりたいと思うことを自分でやれる』『管理職にならないか、と声がかかったら引き受けてみるといい』とのお話がありました。『保健師として培った、物事を判断する「ものさし」は武器になる』という発信は、そうだね。それでいいんだと思えるお言葉でした。『口で教えたことは、なかなか伝わらなくても、一生懸命やったなあということを大事にしたい』ともおっしゃられていました。

小さな町だからできること、地域住民との顔の見える関係、スピード感をもって事業に取り組める、庁内連携がしやすい、保健が他部署から見えやすい、外部と繋がりやすいなどたくさんさんのメリットを挙げていただきました。

【講演】テーマ：『多様化する保健師の人材育成とは～日々の活動を振り返る～』

講師：日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 地域看護学 教授 成木 弘子 氏



保健師の人材育成は、社会の状況を踏まえた上で、求められる人材を提示した上でどのように行っていくかというお話がありました。これから向かう経験のない世界とは、「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」【VUCA(ブーカ)時代】。人口減少社会となるが、全ての仕組みは人口が増えることでお金があるという構造でつくられている。AI等により今の仕事の2分の1か3分の1になっていく。人と人との交流がない時代に突入する。これらの世界に対応する力とは、知恵を出し合い、感性や感情を「形にする力」、体験から学び自立して成長し続けることが必要となる。対応する力として、困難な状況に直面した時に、**しなやかで折れることなく立ち直る力(レジリエンス)**が必要。とお伝えいただきました。

何が起こるかわからないけど、くじけないで乗り越えていく 頑張れる力 そして、逆境を乗り越えた人たちは、困難な状況に押し潰されることなく、「状況に準じて生きぬく回復力(レジリエンス)」を持っている。また、組織も同様であり、個人・組織のレジリエンスの相互作用によって、レジリエンスの高い組織・チームを作っていくことになります。

♥ レジリエンスを高めるために…リフレクション(省察)が効果的

〈リフレクションとは〉 × 振り返り × 反省 × 内省

- ・自分自身の行動や考えを深くかえりみること (大辞泉)
- ・過去に起こった出来事の本意を探り、その経験における自分のあり方を見つめなおすことで、今後同じような状況に直面したときによりよく対処するための「知」を見出そうとする方法論 (人事労務用語辞典)



たまに職場から放れて、日ごろ知らない人たちと話してみることも効果的！

注意：「反省」になると自己責任の追及に陥る危険！業務の文脈から抜け出せるような環境が必要

◆ レジリエンスを高める ①自分 ②部下 ③チーム

【自己効力感を高める】 Self-efficacy：自分ならできる

【自尊感情を高める】 Self-esteem：自分の存在自体に価値があると思う

【感情をコントロールする】：とらえ方を変え、気持ちを切り替える

【楽観的】：「きっとこの問題も乗り越えていけるんだ」という楽観的な思考

参考) 久世浩司 「レジリエンスの鍛え方」 実業之日本社 2014



♠ 心理的安全性の高い職場づくり

メンバー一人ひとりがチームに対して気兼ねなく発言ができ、自然体の自分でいられる環境・雰囲気

「優秀な人材」というより「チームワークがよい」組織の方が、パフォーマンスが上がる！

《グループワーク》 経験学習モデルの活用

♣ うまくいったことには必ず工夫がある！

- ① 事業の成功体験をテーマにメンバーに報告する。
- ② 実施したことの工夫点やコツなどを出し合う (リフレクション)
- ③ 類似した内容をまとめ概念化する (概念は大きすぎず、体験から抽象化して表現する)

※ 成功体験、失敗体験のどちらでもワークは可能だが、成功のほうが無難

【研修会に参加して】 グループワークでは、とあるA市から、コロナ禍で多くの保健師が退職してしまった！という危機からアンケートや面談を行い、管理職になることへの不安などに対し丁寧なディスカッションを重ねたことで不安が軽減し、共に頑張っていこうという機運が生まれたという報告がありました。メンバーからたくさんさんの工夫点やポイントが出されました。概念化することが抽象的になりすぎてコツがつかみにくかったのですが、頑張っている様子を想像し、良かった点を考えるプロセスはとてワクワク楽しい時間でした。研修会を通して、私自身のレジリエンスを高めて頂けたことを実感することができました。そして、改めて保健師さんってすごいなと思える今日この頃です。(報告者) 習志野健康福祉センター 田中